

## 「スウパァト・ウルオオオオ」

by 小金沢健人+ハラサオリ+石川朝日/相川勝/ロバート・ザイデル

ドイツと日本のアーティストによる、ドローイング・ビデオ・ライブを特別開催。絵画と映像、名画とAI生成、オリジナルとコピーを行き来する鑑賞・上映・観劇・展示をお楽しみいただけます。生成AI元年に汗と涙の人力生成をお届けします。

開催日時：11月16日（土）15:00～18:00

※開催時間は変更となる場合があります。予約不要。

会場：ZONE B/1 階

入場料：無料 ※フード等は有料



「ddds-22」 courtesy KOTARO NUKAGA

小金沢健人

1974年生まれ。大学卒業後ベルリンへ渡り同地で活動、2017年に帰国。映像インスタレーションをはじめとしてドローイング、パフォーマンスなどが混在する作品へと展開。時間の感覚、空間の感覚をさまざまなメディアに移すことで展示空間のみならず、スクリーン上や紙上での『場所』の創出を試みる。チューリッヒのハウス・コンストラクティヴやドイツのランゲンフェルンダー・ウンター・ベルリンのハウス・アム・ヴァルトゼーなど海外での美術館での個展多数。近年のシリーズである「正方形並行生成」は2枚のドローイングを同時生成するパフォーマンス的な作品。ライブで行う「正方形並行生成⇄支離滅裂並行消出」は日本初。来年5月にはベルリンのフンボルトフォーラムでの個展が予定されている。

[https://www.instagram.com/takehito\\_koganezawa/](https://www.instagram.com/takehito_koganezawa/)



「Beck」

相川勝

1978年ベルギー共和国生まれ。多摩美術大学在学中より「複製芸術」をテーマに様々な媒体で制作。近年はネットワークや携帯端末の発達によって現れる状況を提示する写真作品を発表している。東京都写真美術館、東京都庭園美術館、森美術館、十和田現代美術館、NTTインターコミュニケーション・センター（ICC）などで作品を発表。今回のパフォーマンスでは、相川の初期作品であるロックやメタル等のアルバムを肉筆とアカペラにより完全コピーする《CDs》をライブに展開する。

[https://masaruaiikawa.com/work/cd\\_all/](https://masaruaiikawa.com/work/cd_all/)



「HYSTERESIS」

ロバート・ザイデル

1977年生まれ。ベルリンを拠点に活動し、映画的アプローチ、また科学的かつ技術的なアプローチを通じて、抽象化された美しさの限界を押し広げることに興味をもつ。短編映画、プロジェクション・マッピング、インスタレーション、パブリックアートなど多方面に展開。リール美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター、台北当代芸術館など、多数の国際映画祭と美術館で上映。今回は新作「hysteresis」を中心に短編作品上映と生成映像を活かしたパフォーマンスを予定。11月は名古屋、京都、大阪でライブツアーを展開する。「hysteresis」など短編集：<https://robertseidel.com/hysteresis/>



ハラサオリ（振付家・ダンサー/1988生まれ）/石川朝日（俳優/1995生まれ）

デザイン思考を用いて振付を実践するハラと、フランスで演劇を研鑽した石川は、2024年からデュオパフォーマンスを展開。独自の身体言語を用いて、コミュニケーションにおける「意味」と「無意味」の境界を共に探究している。

澤隆志（キュレーター・本展企画）

1971年生まれ。2000年から2010年までイメージフォーラム・フェスティバルのディレクターを務める。現在はフリーランスのキュレーター。パリ日本文化会館、あいちトリエンナーレ2013、東京都庭園美術館、青森県立美術館、長野県立美術館などと協働キュレーション多数。「めぐりあい JAXA」（2017-）、「都市防災ブートキャンプ」（2017-）、「写真+映画=列車」（2018）、「浮夜浮輪」（2018）、「継ぎの時代」（2022-）など企画、運営。